

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02172

研究課題名（和文）家族責任規範の構築・脱構築—多様化するケアラー支援のためのメタ分析

研究課題名（英文）Constructing and deconstructing family care responsibility norms - a meta-analysis for supporting diverse carers.

研究代表者

齋藤 真緒 (Saito, Mao)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：70360245

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ヤングケアラーおよび男性介護者に関するアクションリサーチを基軸としながら、日本においてどのように、家族ケア規範意識が、ジェンダーや世代を超えて、浸透しているのかを検討してきた。ヤングケアラーの介護殺人事件に注目し、若い世代にも、家族ケア規範が強く内面化されている実態を明らかにした。

同時に、ケアラー支援においては、ヤングケアラー支援と全世代のケアラー支援が分断される傾向にあることを明らかにした。18歳を境界とする大人/子どもという年齢区分によって、子どものみがケア責任を免罪され、18歳以上の大人はケア責任を強化される可能性があることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、ヤングケアラー支援は、政府のこども政策の中でも最も注目される社会課題の一つとなっている。社会的・政治的関心が高まる中で、年齢区分することなく、全世代のケアラー支援の必要性を明らかにした点、およびケアラー支援という新しい福祉政策が、家族主義的福祉政策を主軸とする日本において、どのような転換を必要としているのかを明らかにした点は、今後の子ども政策を含む福祉政策の方向性を検討するうえで、重要な知見になりえたと考える。

研究成果の概要（英文）：Based on action research on young and male carers, this study examined how family care norm consciousness permeates across gender and generations in Japan. Focusing on the caregiving murders of young carers, the study revealed the reality that family care norms are strongly internalised, even among the younger generation.

At the same time, this study revealed a recent policy tendency in carer support to divide between young carer support and carer support for all generations, noting that the adult/child age division, with 18 as the boundary, may exonerate only children from care responsibilities, while adults over 18 may be reinforced in their care responsibilities.

研究分野：家族社会学

キーワード：ヤングケアラー 若者ケアラー 子ども・若者ケアラー ケアラー支援 家族ケア責任 家族主義 ケアの倫理

1. 研究開始当初の背景

家族介護状況の多様化が社会的に注目されるようになってきている。介護者の属性を見るとその変化は一目瞭然である。介護保険制度が導入された2000年には「義理の娘＝嫁」が在宅介護者の第一位であったのに対して、2019年には、「義理の息子＝婿」に次いで、下から二位にまで激減している。家事・育児・介護を家庭内で専属で担う「専業主婦ケア体制」が大きく揺らぐなかで、男性ケアラー、ワーキングケアラー（ビジネスケアラー）、ダブルケアラー、ヤングケアラー、シングルケアラーなど、ケアラーの多様化が急激に進んでいる。その一方で、介護離職問題、求職活動できていないミッシングワーカーの増加など、ケアラーがケアと自分自身の生活を両立させることが極めて難しい社会状況が継続している。世界的にも少子高齢化が急激に進展している日本において、ケアの受け手だけではなくケアの担い手を支えることで、ケアを支える持続可能な社会体制を構築することは緊要の社会課題である。

2. 研究の目的

本研究代表者は、妻や親を介護する男性介護者の調査研究活動、子ども・若者ケアラー（ヤングケアラー）の実態調査活動を継続してきた。本研究では、日本のインフォーマルなケアの特性を明らかにすると同時に、こうした家族主義的なケア責任が、どのように変化してきているのかを、男性ケアラーとヤングケアラー当事者への聞き取り調査を通じて明らかにする。公的介護保険制度の導入、障害児者への支援の発展、児童福祉政策の拡充など、ケアを必要とする人への社会制度の充実にもかかわらず、ケアの主たる責任は家族にあるとする「家族主義」が、日本の福祉政策の大きな特徴である。家族主義的な福祉政策の中で、ケアラー支援がどのように具体化されるのか、先行するヨーロッパでのケアラー支援に関する基礎理論と具体的な支援のバリエーションを明らかにしながら、日本におけるヤングケアラー支援、男性ケアラー支援、各地方自治体で制定がはじまったケアラー支援条例がどのような特徴があるのかを検証する。この研究は、自己責任が重視される新自由主義下のケアの再編の方向性「再家族化」と「脱家族化」をめぐるせめぎあいを見通すことにも寄与しうる。

3. 研究の方法

家族主義的なケアラー支援は、ともすれば、ケア役割を前提にして、「ケアし続けるための」支援に陥る危険性がある。日本でもケアラーの多様化が進展しているが、それゆえに、ケアラーが、ケア役割だけではなく、自分自身の人生を豊かにするための支援とはなにかという観点から、ケアラー支援を構想する必要がある。具体的には、男性ケアラーと子ども・若者ケアラーを分析対象として、家族責任規範が、ジェンダーや世代を超えてどのように継承されているか、あるいはどのように変容しうるのか、当事者の語りから検証する。

EUを中心とするケアラー支援に関する研究と社会実践の到達点について、カンファレンス等に参加して情報収集と研究ネットワークの構築を行う。

ジェンダーという点については、研究代表者がこれまで構築してきた研究ネットワークにおいて、共著者の執筆に取り組んでいる。とりわけ、男性介護者が抱える課題と男らしさとのかわりについて、論文を執筆する。

また、家族ケア規範の脱構築の手がかりとして、ヤングケアラーにとどまらない全世代型のケアラー支援について、各地方自治体の条例を検討しながら、その可能性と課題を整理する。2023年3月末の段階で、14の自治体で、全世代型の「ケアラー支援条例」が制定される一方で、2つの自治体において、年齢区分を明確にした「ヤングケアラー支援条例」が制定されている。それぞれの条例の特徴や具体的な支援を通じて見えた課題を整理する。

4. 研究成果

(1) ケアとジェンダーに関する考察 男性ケアラーに関する研究

国際的な研究ネットワークを通じて、男性ケアラーに関する論文を発表した。

Mao Saito, Male carers and Gender-Specific Support in Japan, in: Dolores Comas d'Argemir and Sílvia Bofill(eds.), 2021, *EL CUIDADO DE MAYORES Y DEPENDIENTES, AVANZANDO HACIA LA IGUALDAD DE GÉNERO Y LA JUSTICIA SOCIAL (Caring for elderly and dependent people: a political and social issue)*, Icaria, 143-145.

Mao Saito, 2023 (in print), Male Caregivers in Japan: Between Care and Masculinity, in: Tanaka Kimiko and Herain Selin (eds.), *Sustainability, Diversity, and Equality: Key Challenges for Japan*, Springer Berlin.

(2) 子ども・若者ケアラーに関する参加型アクションリサーチの遂行

本研究では、ケアラー支援に関する国際的な動向把握と研究ネットワークの構築を図ることができた (International Young Carers Conference : Brussell, 2021年6月、EURO Carers 主

催) 2023年2月には、イギリスのケアラー支援の現状を知るために、Carers Trust, Children's Society, Sheffield Young Carers を視察し、海外の研究者・支援者とのネットワーク構築を図った。また、本研究終了後にも活用できる研究ネットワークを形成することができた。

5年間続けてきた事例検討の成果については、共編著として出版し(『子ども・若者ケアラーの声からはじまるーヤングケアラー支援の課題』クリエイツかもがわ)、2022年2月には、出版記念シンポジウム(ハイブリッド)も開催し、80名以上の参加者を得ることができた。

政府が用いている「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子ども」(骨太の方針)と定義されている「ヤングケアラー」を、批判的に検証してきた。研究実施者は、2017年から、公益財団法人京都市ユースサービス協会の事業として、「子ども・若者ケアラーの実態に関する事例検討会」に発起人としてかかわってきた。ここで、ケアラー当事者の「生きられた経験」の聞き取りを通じて、多様なケアの実態と見えにくいケアの存在、18歳以降のケア負担の増加、ケアラー自身の人生設計の困難、家族ケアに関する両義的な感情体験などを明らかにしてきた。

本研究を通じて、年齢で区切ることのない「子ども・若者ケアラー」という概念の重要性を明らかにしてきた。現在、各地方自治体で、国のヤングケアラー支援事業を具体化しており、「ヤングケアラー」という言葉が広く流通しているが、21歳の女性が介護していた祖母を殺害するという事件が発生した兵庫県神戸市は、年齢区分の問題を踏まえ、全国で初めて、「こども若者ケアラー支援担当課」を設置し(2021年6月)、18歳以上のケアラーも視野に入れた支援に着手している。

また、本研究を基盤としつつ、単なる質的研究法を通じたケア実態の解明だけではなく、「ヤングケアラー」に対する社会的・政治的関心の高まりに対して、当事者の声をもっと積極的に反映させていく仕組みづくりをすべく、2021年9月に、立命館大学人間科学研究所の研究プロジェクトとして、「子ども・若者ケアラーの声を届けようプロジェクト Young Carers Action Research Project: CARP」を立ち上げ、当事者の組織化および声を社会的発信、ひいては社会資源の開発のための活動舞台を用意した。現在は、HPも解説し、活発な情報発信を行っている(<https://y-carp.wixsite.com/my-site>)。

(3) ケアラー支援/家族まるごと支援(Whole Family Approach)

本研究では、目に見えるケアラーの発見(何をしているか=doing)だけではなく、目に見えないケアラーの困難(ケアラーで居続けること=Being)を明らかにして、ケアラー支援の範疇をめぐる問題点や課題について明らかにした。家族ケア責任規範が、ジェンダーや世代を超えて、多様な家族ケアの場面に広がっていることを踏まえつつ、子ども・大人という二分法に陥ることなく、全世代のケアラー支援の必要性とその論理について検討してきた。また、ケアラーを支援する場合、ケアをしている相手(ケアの受け手)への支援も視野に入れなければ、ケアラーが自分自身の生活を充実させたり、人生設計を行うことが難しい。本研究ではイギリスのケアラー支援の歴史的変遷やその特徴、先駆的な支援実践、法律に明記されている家族まるごと支援(Whole Family Approach)という観点の意義についても検討した。これらの明らかになった知見は、公表論文として、まとめてきた(単著、斎藤真緒、2021、「子ども・若者ケアラー支援から考えるケアの政治 ケアラーをめぐる政治の射程」富士谷あつ子・新川達郎編『フランスに学ぶジェンダー平等の推進と日本のこれから パリテ法制定20周年をこえて』明石書店、235-248頁、単著「ヤングケアラーの現状と自治体の支援策」『自治体法務研究』70: 33-37頁、単著「家族介護への支援の課題 - 男性介護者とヤングケアラーを手がかりとして」『人権と部落問題』965:25-32頁、単著「あらためて、ヤングケアラー『ブーム』を問うー問題の射程と次元の再考のために」『現代思想 2022年11月号 特集ヤングケアラー: 家族主義的福祉・貧困の連鎖・子どもの権利・・・』40-50頁など)。

また、研究成果の社会的還元として、地方自治体のヤングケアラー支援の担当部門にアドバイザーとしてもかかわってきた(滋賀県子ども・若者ケアラー支援プロジェクト、大阪府茨木市、京都府、京都市、滋賀県大津市など)。さらに、各種、専門職への研修や講演活動を積極的に行ってきた。以下、主要なものを列記する。

【2021年度】

滋賀県社会福祉協議会子ども・若者ケアラー実態調査プロジェクトアドバイザー(滋賀県委託事業)

講演・研修:

大阪府社会福祉協議会、兵庫県神戸市ケアマネージャー研修会、滋賀県草津市市民交流センター、滋賀県商業高校(高校2年生)

東京都民安全推進本部若者支援課主催地域若者支援者向け研修会

神戸市社会福祉協議会市民福祉大学

【2022年度】

全国児童家庭支援センターヤングケアラー支援事業アドバイザー(日本財団助成事業・通年)

講演・研修:

奈良県精神福祉士会研修、尼崎市生涯学習プラザ若者支援者研修、滋賀県民生委員研修、若田市教育委員会教員研修、滋賀県精神福祉センター研修、倉敷市ヤングケアラーに関する関係機関職

員研修、京都府ヤングケアラー支援センター研修会、西宮市教育委員会校長研修・教員研修、日本高齢者大会分科会世話人、貝塚市中央公民館、和歌山市ヤングケアラー担当者研修会、城陽市男女共同参画センター、京都社会福祉士会南部支部研修、淡海フィランソロフィー協会研修、京都市伏見区研修、高槻市子育て支援センター研修、部落解放同盟京都府連合会講演、滋賀県弁護士会、大阪府家庭教育支援スキルアップ研修、福知山市市民講演会、愛知県大府市講演、横浜市ヤングケアラーフォーラムなど

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 1004
2. 論文標題 子ども・若者ケアラー（ヤングケアラー）を支える：当事者の経験と声を中心にすえた支援策を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 前衛	6. 最初と最後の頁 117-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 138
2. 論文標題 ヤングケアラーをめぐる諸問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 女も男も	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 485
2. 論文標題 「『ヤングケアラー』を知っていますか？」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『じんけん』	6. 最初と最後の頁 5-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 なし
2. 論文標題 「子ども・若者ケアラー支援から考えるケアの政治 ケアラーをめぐる政治の射程」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『フランスに学ぶジェンダー平等の推進と日本のこれから パリテ法制定20周年をこえて』	6. 最初と最後の頁 235-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 535
2. 論文標題 イギリスにおけるヤングケアラー支援—シェフィールドを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ウォロ	6. 最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 50
2. 論文標題 あらためて、ヤングケアラー『ブーム』を問う—問題の射程と次元の再考のために	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 40 - 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 70
2. 論文標題 ヤングケアラーの現状と自治体の支援策	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 自治体法務研究	6. 最初と最後の頁 33-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤真緒	4. 巻 965
2. 論文標題 家族介護への支援の課題 - 男性介護者とヤングケアラーを手がかりとして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人権と部落問題	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斎藤真緒	4. 巻 52
2. 論文標題 イギリスのヤングケアラー支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 総合社会福祉研究	6. 最初と最後の頁 45-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Mao Saito and Yu Kasai
2. 発表標題 The Reality for Young Carers in Japan,
3. 学会等名 3rd International Young Carers Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤真緒
2. 発表標題 ヤングケアラー支援の課題と展望－児童家庭支援センターの実践から見てきたこと－
3. 学会等名 日本こども虐待防止学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 斎藤真緒・濱島淑恵・松本理沙・京都市ユースサービス協会編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 246
3. 書名 『子ども若者ケアラーの声からはじまる ヤングケアラー支援の課題』	

1. 著者名 津止正敏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中公新書	5. 総ページ数 256
3. 書名 男が介護する-家族のケアの実態と支援の取り組み	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>朝日新聞「介護離職ゼロ」掲げる管内閣へ 現場から届いた声 https://digital.asahi.com/articles/ASNBB6D45NB7UTFL009.html 神戸新聞「18歳未満で家族の介護や世話担う子どもたち ヤングケアラーの実態は？」 https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202011/0013830605.shtml 京都新聞「自覚なきヤングケアラー探す <700万人時代 認知症とともに生きる>」 https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/360547</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮川 淑恵 (濱島淑恵) (Toshie Hamajima) (30321269)	大阪歯科大学・医療保健学部・教授 (34408)	
研究分担者	津止 正敏 (Tsudome Masatoshi) (70340479)	立命館大学・産業社会学部・特任教授 (34315)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

英国	Sheffield Young Carers	Carers UK	Children's Society	
----	------------------------	-----------	--------------------	--